

山形県立

荒砥高等学校同窓会報

発 行：山形県立荒砥高等学校同窓会
事務局：県立荒砥高等学校内
〒992-0831 白鷹町荒砥甲367
電 話：0238-85-2171 Fax：0238-85-2823
U R L <http://www.arato-h.ed.jp>
E-mail arato@arato-h.ed.jp



代替大会の壮行式（体育館）

克己復禮

同窓生総数 9,336 名

荒砥高等学校は、論語の中の「克己復禮」（自分の私利私欲を抑え、社会の秩序・規範に従う）を校訓としています。創立五十周年の時に、同窓生、後援会、教職員など四〇七三名の募金者のご協力のもと建設された記念館は、校訓の精神を生徒に体得して欲しいとの願いを込めて「復禮会館」と命名されました。

皆さんは多くの方から支えられています。この三年間で学んだこと、人との関りを大切にしてください。そして、それぞれの新しい目標に向かって踏み出してください。

前途に幸多からんことを願っています。



歓迎のあいさつ

ご卒業おめでとうございます。また、荒砥高等学校同窓会への入会を心から歓迎いたします。

さて、今年度はコロナ禍にあり卒業生の皆さんにとって勉強、部活動、学校行事などが今までとは違ったものになってしまいました。その中にあり、皆さんは戸惑いや焦燥感などもあったかと思いますが、それぞれの進路に向けて努力されたことと思います。様々なことを乗り越えたこの特別な一年は、生涯忘れることのない一ページとなることでしよう。

同窓会長 青木彰榮

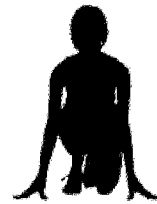
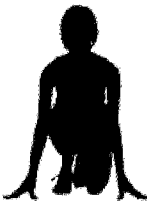
陸上競技部の紹介

二年 鈴木 愛華

私たちは陸上競技部は、コロナウィルスの影響で、県高校陸上競技大会から始まりました。制限がかかる中でも代替大会に出場出来ることに感謝し、それぞれの目標に向かって取り組んできました。私は、一年生の後半から部長を務めることになり、指示をすることや、まとめるという役割は、大きな試練でもありました。しかし、部員の支えのおかげで、部活動を引っ張ることができています。

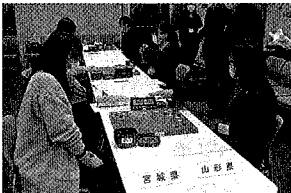
私は県新人大大会に出場することができましたが、納得のいく記録を出すことができませんでした。今は、県総体入賞を目指し、自主的に練習メニューや成果と課題をノートにまとめ、よりよい競技ができるようイメージを大切に言い、努力しています。

今年度は、私たちにとって最後のシーズンになります。みんなで県総体に出場し、上の舞台で輝けるように数少ない練習を頑張っていきたいと思っています。



〈克己復禮〉

○テニス部
 県新人大会 女子シングルス 松田 琴美 出場
 ○水泳(競泳)
 県水泳選手権大会 男子五十m自由形 第二位 金田 理央
 ○総合文化部 囲基班
 第四四回県高等学校総合文化祭 囲基部門 遠藤 蓮華
 総合文化祭賞(第一位) 高文連賞(第二位) 嶽本 結月
 第三位 河井 虹星
 ○総合文化部 美術班
 山形県高等学校美術展 努力賞 鈴木 優斗
 第六七回県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会
 最優秀賞(ホームプロジェクトの部) 青木 楓華
 「我が家のSDGsアクション」持続可能な生活を目指して」
 第六八回東北ブロック高等学校家庭クラブ連盟大会
 優秀賞(ホームプロジェクトの部) 青木 楓華



令和2年度卒業生進路状況

令和3年2月1日現在

進 路 先			人 数			割 合		前年度実績	
			男 子	女 子	合 計	部 門 毎	全 体	人 数	全 体 %
就 職	管 内	白 鷹	5	3	8	32.0%	18.2%	7	13.7%
		長 井	3	4	7	28.0%	15.9%	10	19.6%
		飯 豊	1	1	2	8.0%	4.5%	2	3.9%
		管 内 計	9	8	17	68.0%	38.6%	19	37.3%
	そ の 他 県 内		2	2	4	16.0%	9.1%	2	3.9%
	県 外		1	1	2	8.0%	4.5%	1	2.0%
	公 務 員		2	0	2	8.0%	4.5%	8	15.7%
就 職 計			14	11	25	100.0%	56.8%	30	58.8%
進 学	大 学		0	0	0	0.0%	0.0%	1	2.0%
	短 期 大 学		0	4	4	23.5%	9.1%	4	7.8%
	高 専・医 技 専 等		0	2	2	11.8%	4.5%	2	3.9%
	産 技 短 等		1	0	1	5.9%	2.3%	2	3.9%
	専 門 学 校 等		3	7	10	58.8%	22.7%	11	21.6%
進 学 計			4	13	17	100.0%	38.6%	20	39.2%
そ の 他・未 定			1	1	2		4.5%	1	2.0%
卒 業 者 数			19	25	44		100.0%	51	100.0%

令和2年度卒業生 同窓会評議員名簿

地 区 名	氏 名
白鷹東地区	菅 原 さつき
白鷹西地区	木 口 翼
長井他地区	寒河江 悠 斗
関 東 支 部	安 彦 優 花

あ
と
が
き

新型コロナウイルスが猛威をふるい、学校はじめ同窓会活動にも影響が生じた。学校の臨時休校、同窓会の入会式、そして総会も中止せざるを得ない事態となるなど「顔の見えない」状況が続いている。一日も早い収束と、いつもの行事が実施できる環境になっていくことを願うばかりだ。



卒業生の前途を祝すとともに、会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

(松野)

荒砥高校の現況とこれから

校長 海和 雅人



荒砥高等学校同窓会の皆様には、本校教育活動に對しまして、物心両面にわたり深いご理解と絶大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。衷心より感謝申し上げます。

この一年間、教育現場においても新型コロナウイルス感染症の影響は非常に大きく、皆様に生徒の様子を直接お伝え出来ないまま今日を迎えていますこと、誠に残念に感じています。

年度当初は、「学びとつながりを止めない」との思いで、導入したばかりのオンラインシステムで、生徒と教員の双方のやり取りを行いました。また、部活動では、吹奏楽部がオンライン部活の一環として、YouTubeで演奏動画を公開しました。その後も「新しい生活様式」のもと、「できる事をできる事から」「やるためには」と生徒・教職員一丸となって知恵を出し合

い、教育活動・学校生活を前に進めています。

さて、今年度、「荒砥高等学校の魅力化に係る地域連携協議会」が設置されました。有識者の指導・助言のもと、町と学校がより深く連携して持続的な学校づくりをしていきます。教科・科目の授業を基盤とし、地域全体を学びの場として、地域課題の解決に向けて探究的な学びを深めていきます。これらのことを通して、一人一人がキラリと輝き、地域で活躍する有為な人材を育て続けてまいります。

一刻も早いコロナ終息を願いながらも、ポジティブなパラダイムシフトの時と捉え、柔軟に考えて行動でき、乗り越える力を持った生徒を育てたいと思いますので、同窓会の皆様には、なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、荒砥高等学校同窓会の益々のご発展と、同窓会の皆様の益々のご健勝を祈念いたします。

最高の宝物

山口 翔大

荒砥高校で過ごした日々は心に刻まれる思い出になりました。その中で得たことは仲間と協力して支え合うことで、自分自身も大きく成長することができた三年間でした。諦めたことや、辛かったこともありましたが、楽しかった時間だけが心に残っています。

います。こうして楽しく過ごすことができたのも、クラス仲間、多くの友達、先生方がいたからだと思っています。感謝を忘れないでいたいです。春からは食品製造の仕事に就きます。荒砥高校で学んだことを活かして、職場に貢献できるように頑張ります。また、戸惑うこともあるとは思いますが、一人で抱え込まず、自分がやるべきことを常に考え行動していけるようにしたいです。

新入会員の声

荒砥高校で過ごした三年間

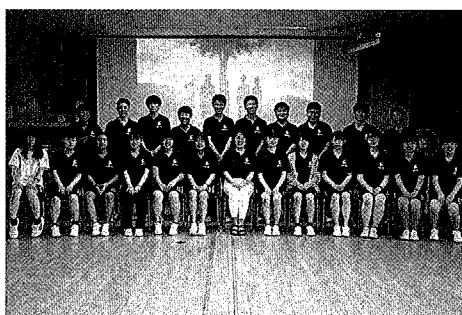
菊地 汐莉

荒砥高校で過ごした三年間は私にとって宝物です。クラス仲間たちと過ごした日々、学校行事、部活動の全てが私の記憶の中で輝き、私を成長させる力になりました。特に吹奏楽部で過ごした時間は未熟だった私を楽器の技術の面でも精神的な面でも成長させてくれました。辛い

こと、大変なことは沢山ありましたが、それ以上に楽しいこと、嬉しいことが沢山ありました。夏のコンクールでの県大会出場、十一月に行われる定期演奏会、その一つ一つで経験を積み、成長してきました。こうして三年間を毎日楽しく過ごせたのはクラスの仲間や友人、吹奏楽部の仲間、先生方、地域の皆様のおかげで、今まで関わってきた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。私は四月から社会人として



文化祭 1組



文化祭 2組

の生活がスタートします。正直不安でいっぱいですが、この三年間荒砥高校で学んだことを活かして、自分の仕事に責任とプライドを持つて働きたいと思っています。そして少しでも社会に貢献できる人間になりたいです。人生の中の三年間という短い時間を荒砥高校で過ごせてとても楽しかったです。

故郷の皆様へ

同窓会関東支部長 菅野 孝雄



四十二年前、百名を超す参加者を得て設立された関東支部ですが、ここ暫く、新規入会者も無く、会員・役員の高齢化は進み、「解散」さえ懸念された時もありました。その危機を何とか乗り越え、支部の継承、活性化を図るべく、「支部報」の充実などに取り組んでいる昨今です。

コロナ禍、支部総会は今後も開けそうもなく残念な思いをしております。

故郷の皆様からは、いつも暖かなご支援を頂き、本当に有難く、心から御礼申し上げます。

さて、「校歌」は同窓生皆の心の資産と思いますが如何でしょうか。支部総会ではないつも、「さみどり香る稲荷台知徳を磨く荒砥 荒砥……真理を星に探ねばや」と声を張り上げ、愛とか真理とかへ興味を持ち始めた高校時代に、皆で一緒にタイムスリップし、大いに盛り上がりです。ところで、国立国会図書館には、「真理がわれらを自由



にする」との銘文が掲げられています。以前、それを目にした時、校歌を思い起こし、国の中央図書館と荒砥高校とが、「真理」への確信を共通の思いとして歩み続けてきている事に胸が高鳴り、とても誇らしい思いをしました。

掛け替えのない母校の更なる発展を願ひ、故郷の皆様、新同窓生の皆様とご一緒に頑張りたいと思っております。(一九六二年三月卒業)

木造の母

菅 昭美(ママチャリ)

もう十年ほど前、講演で招かれ、実に久しぶりに母校の玄関をくぐることになりました。が、そこは、我々が卒業した後に建設された新校舎であり、残念ながら懐かしさも哀愁の欠片もない。

そう、我々世代の荒高は、ギリギリ木造校舎だった。

「木の温もり」であるとか、そういった綺麗事ではない。我々世代は、木造の校舎に特別な思い入れがあったわけではけっしてない。

私は西中の出身だったが、西中学校は、我々が入学する前に、県内でも指折りの近代的な鉄筋コンクリート校舎となっていた。正直、その校舎を出て、ボロボロの木造校舎の荒高に入るのは、相当な抵抗があった。ましてや、中三ギリギリでようやく最新の校舎に通った東中出身者たちは、気の毒この上なかった。

長所と言ったら、せいぜい舟木一夫の『高校三年生』の赤い夕陽が校舎を染めるシーンを容易に想像できたことくらい……と、思っていたら、

我々の入学の喜びは、その木造校舎と、さらにそこに付随する原始的な便所によって粉々に打ち砕かれた。我々男子でさえそうであるのだから、乙女盛りの女子の気持ちには察するに余りある。実際、わざわざ近隣にある町中央公民館の水洗トイレまで通う子が、後を絶たなかった。

が。かと言って、そのまま荒高生活がつまらなかつたわけではない。むしろ満喫したと言ってもいい。

なにより、私はあの学校でおきた出来事を素に、三十巻余りに及ぶ物語を書き、果てはそれが映画にまでなった。映画に出てくる『荒高』もまた鉄筋コンクリートだったことは、いた



しかたないとしても。母校の生活をそのまま「現金化」した卒業生も珍しいだろうから、今更、校舎に苦言を言つては、バチもあたろうというもの。なにより。やがて全国から読者が「聖地巡礼」と称して、舞台となった母校「荒砥高校」を訪ねて来たが、そこは母ではなく、継母だということを、彼らの多くは知らない。それがなぜか残念に思えるのは、どこかであのボロボロになつてがっぽりだった末期の母校の校舎を、愛していたのかもしれない。(一九七七年三月卒業)